

第3 問題作成部会の見解

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 現代における政治、経済、国際関係等について多面的・多角的に考察する過程を重視する。現代における政治、経済、国際関係等の客観的な理解を基礎として、文章や資料を的確に読み解きながら、政治や経済の基本的な概念や理論等を活用して考察する力を求める。問題の作成に当たっては、各種統計など、多様な資料を用いて、様々な立場から考察する問題などを含めて検討する。

2 各問題の出題意図と解答結果

第1問 生徒たちが居住するある県の広報誌を見ながら現代社会の諸課題を知るためのきっかけを見つけ、日本や世界の政治・経済について考察する問題を作成した。問1は、資本主義の特徴や経済学説についての、基礎的な知識や理解を問う問題である。問2は、東アジアの国々の経済動向に関する知識や資料を読み取る力を問う問題である。問3は、加工貿易型、モノカルチャー経済、各国の経済発展に関する知識を基に、貿易統計のデータを読み解く力を問う問題である。問4は、温室効果ガス排出ゼロの意味と固定価格買取制度の意味とを理解した上で、図を読み取る力を問う問題である。問5は、日本国憲法における国民の権利と国家の義務、国民の義務の規定の意義について、概念の本質を考える力を問う問題である。問6は、経常収支や貿易・サービス収支、日本経済の構造変化を、データを通して捉える力を問う問題である。問7は、公正取引委員会の独立性とその憲法上の位置付けについて、独禁法の条文に即して読み取る力を問う問題である。問8は、日本における国家公務員等予算定員数の減少とその会計上の位置付けについて、グラフを用いて考察する力を問う問題である。正答率は、問4が最も低く、問5、問6、問7もやや低く、問8が最も高かった。全体としての難易度はやや高かった。

第2問 生徒たちが「政治・経済」の授業を基に整理したノートから、経済に関する総合的な問題を作成した。問1は、都市の過密化、地方の過疎化の経緯や現状、対応策に関する基礎的な知識を問う問題である。問2は、地方財政に関する基礎的な知識を問う問題である。問3は、地域再生の各主体に関する基礎的な知識を問う問題である。問4は、政府が価格に介入した場合の影響に関して、基礎的な知識を基に論理的に判断する力を問う問題である。問5は、為替介入について基本的な知識を基にその方向性を図から適切に読み取る力を問う問題である。問6は、リサイクル率の仮想的な値を用いて、その結果を正確に読み解く力を問う問題である。問7は、日本国債の保有者構成比の変化の背後にある要因を問う問題である。問8は、国内総生産の支出項目について、基礎的な知識を基にメモを読み取る力を問う問題である。正答率は、問8が最も低く、問6も同程度で低く、問3と問4はやや低く、問7が最も高かった、全体としての難易度は高かった。

第3問 生徒たちが大学のオープンキャンパスに参加し模擬授業を受け、授業の資料や授業を踏まえた議論を素材に、国際政治及び日本政治に関する諸問題を考察する問題を作成した。問1は、冷戦期以降の軍縮条約に関わる基礎的な知識を前提にして、核軍縮の進展と課題を問う問題である。問2は、今日でも継続する紛争に関する基礎的な知識を前提にして、パレスチナ問題の進展と課題を問う問題である。問3は、戦争の違法化に関する基礎的な知識を前提にして、国連による集団安全保障体制の進展と課題を問う問題である。問4は、日本の安全保障に関する基礎的な知識を前提にして、法制度に関する近年の変更点の理解を問う問題

である。問5は、日本の議院内閣制に関する基礎的な知識を前提に、「委任の連鎖」と「責任の連鎖」というモデルに照らして制度の意義を捉えることができるかを問う問題である。問6は、少年法や刑事事件についての基礎的な知識を前提にして、令和3年の少年法改正について考察できるかを問う問題である。問7は、日本国憲法の表現の自由の保障に関する知識を活用しつつ最高裁判所の判例を読解し、その保障の意義を捉えることができるかを問う問題である。問8は、衆議院と参議院の性格や権限の違いについての基礎的な知識や理解を問う問題である。正答率は、問2が最も低く、問3、問4、問6もやや低く、問7が最も高かった。全体としての難易度は標準であった。

第4問 SDGs策定までの経緯を踏まえて、その意義と課題について探究する問題を作成した。国家間における取組みの工夫や国家以外の主体による取組みなどについて考察させることをねらいとし、現代社会の諸課題について幅広く問う問題を作成した。問1は、SDGsに至るまでの環境や開発に関する国際会議の流れを問う基本的な問題である。問2は、京都議定書及びパリ協定に関する知識を前提に、地球環境問題への取組みに関する歴史的展開の中で各条約の意義や位置付けを考察させる問題である。問3は、国際機関の仕組みに関する知識を問う問題である。問4は、サプライチェーンとフェアトレードに関する基礎的な知識を問う問題である。問5は、発展途上国の債務問題について、専門的な指標に基づいて検討・判断させる問題である。問6は、SDGsの特徴である「目標ベースのガバナンス」の意義を、背景となっている国際社会の状況や構造に関する知識を踏まえて考察させる問題である。正答率は、問1が最も低く、問2、問3も同程度で低く、問6が最も高く、問4も同程度で高かった。全体としての難易度は標準であった。

3 出題に対する反響・意見等についての見解

出題内容・範囲については、『政治・経済』の全分野にわたる総合的な内容であり「多面的・多角的に考察させる設問」や「データなどの資料を読み取らせた上で、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる出題もあり、受験者にとって身近で時事的な要素を含む問題を取り上げるなどの工夫がみられる」、「学習指導要領に掲げられた教科・科目のねらい及び内容におおむね則しており、基礎・基本を重視したものとなり「基礎的基本的な知識を確認する問いや、確かな基礎的基本的な知識に基づき資料等を読み込み『政治・経済』で学んだ見方考え方を発展させた思考力判断力を駆使して解く問いを中心に構成されている」と評価された。分量については、「適切な設問数であり」「試験全体の分量や文字数についても、問題作成方針を考慮すると適切なものである」、「質・量ともに共通テスト初年度以来、同程度を維持している」と評価されたが、「大量の文字情報や数値あるいはグラフなどを読み込み処理する能力も求められているが、この求められる能力が『政治・経済』の学習において涵養される能力であり共通テストとしてはかるべき学力なのかについては議論の余地があるかもしれない」との指摘もあった。難易度については、「標準的な難易度の設問が多く、適正である」、「難問奇問は見られず平易ながら考えて解く工夫がなされている」と評価された。問題の場面設定については、「生徒が主体となって活動したもの」が限られており「現代社会の諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てるという『政治・経済』の科目の目標と照らしてやや不十分な点がみられる」、「大問の状況設定に無理があるのは共通テストならではの制約とは理解できるものの、出題される先生方の専門性を活かした学問としての背景のあるリード文を」読ませるべきではないか、との評価・意見があった。また、場面設定と関連し、「知識を端的に問う問題が増加し、学びを深めていくというメッセージ性はやや弱まっている」とも指摘された。今後の問題作成に当たっては留意したい。配点については、「テーマの趣旨を理解し

ながら資料等を読み取って考察する問題への配点が大きくなっており、適切である」と評価されたが、「解答に当たって、複雑な手順を踏むことが必要で時間がかかる問題の配点も高くするなどの配慮も必要と考える」との意見もあった。今後の検討課題としたい。文章表現・用語や図表の取扱いについては、「資料やメモを置くなど、受験者が問題を理解しやすいように工夫されており、適切である」と評価された。

第1問については、「『日本や世界の政治・経済の現状』をテーマにした政治分野と経済分野の融合問題であり、「政治や経済に関する考え方や用語の理解等を、様々な資料を読み取らせながら問う形式の設問が多く、全体としての難易度は標準である」との評価を受けた。場面設定に際し、県の広報誌を題材とした点については、「『政治・経済』の授業において様々な情報媒体を活用するというメッセージ性が読み取れるが、大問の導入部分と各設問との関連性が薄く、さらなる工夫が必要であると考えられる」、「各問いを見ると広報誌という設定である必要はない。リード文と各問の有機的なつながりは必要だろう」との指摘があった。今後の検討課題としたい。各国の経済構造の特徴に関する問3は、「複数の資料を読み取って、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる、標準的な設問である」と評価された。日本の地球温暖化対策に関する問4は、「知識でも解けるし、思考力判断力を駆使して解くこともできる問い」と評価された。日本の公務員数の推移に関する問8は、「基礎的基本的な知識と図の読み取りとを合わせた思考力判断力の問い。公務員数の推移は行政の民主化で学ぶ基礎的かつ大切な内容である」と評価された。なお、一部設問については解答の導き方に関する指摘を受けた。いずれも問題はなく適切であったと考えるが、今後の問題作成に当たっては留意したい。

第2問については、「『経済分野の学習の振り返り』をテーマにした経済分野の問題であり」、「経済に関する考え方や用語の理解等を、様々な資料を読み取らせながら問う形式の設問が多く、全体としての難易度は標準である」との評価を受けた。場面設定に際し、生徒が授業を振り返りながら整理したノートを用いた点については、「ノートという体裁で学びの過程が示されているわけでもなく、小問で問いたい事項が羅列されているに過ぎ」ず「大学で学ぶにはこれだけの知的水準が必要なのだという水準を示すリード文を設けることの方がはるかに重要だと思われる」との指摘があった。今後の検討課題としたい。政府による価格への介入の影響に関する問4は、「介入によって需要供給曲線がどのように影響を受けるかを考察させる工夫された設問である。資料を読み取った上で、論理的な説明が求められる、知識の理解の質を問う、標準的な設問である」と評価された。為替介入に関する問5は、「模式図を用いて考察させる工夫された設問である。資料を読み取った上で、基本的な知識・理解を基に思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる、やや難易度が高い良問である」、「『風に逆らう介入』と『風に乗る介入』という表現を定義して考えさせようとしている」と高く評価された。日本国債の保有者や金融政策に関する問7は、「金融政策について、基本的な知識・理解を基に日本国債の保有者構成比と保有高に関する資料を読み取る力を問う、標準的な設問である」、「基礎的基本的な知識と思考力判断力を問う」と評価された。なお、一部設問については問うている知識や解答の導き方に関する指摘を受けた。いずれも問題はなく適切であったと考えるが、今後の問題作成に当たっては留意したい。

第3問については、「『国内外の政治や法制度』をテーマにした政治分野の問題であり」、生徒たちが受けた「模擬授業のテーマから知識・理解を問う設問を中心に出题されているが、最高裁判所の判例などの資料を読み取らせる問題や時事的な要素を含む設問もあり、全体としての難易度は標準である」との評価を受けた。場面設定に際し、オープンキャンパスの模擬授業を取り上げた点については、「模擬授業の内容という体裁で、小問で問いたい事項が羅列されているに過ぎ」ず「大学で学ぶにはこれだけの知的水準が必要なのだという水準を示すリード文を設けることの方がはるかに重要だと思われる」との指摘があった。今後の検討課題としたい。戦争の違法化の

試みに関する問3は、「会話文の二人の生徒の立場から考え、国際関係を見る眼を問う基礎的基本的な問い」と評価された。日本の統治機構における委任と責任に関する問5は、「日本の立法と行政の責任関係についての知識・理解を基に思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる設問で、標準的な難易度の良問である」、「制度論に陥りがちな分野を『委任の連鎖』と『責任の連鎖』から考えさせる平易ながら良問」と高く評価された。少年法改正に関する問6は、「18歳を巡る諸課題は高校生にとっては身近な話題であり、自らが法的関係と無縁ではないことを受験者に認識させる教育的配慮に満ちた問い」と評価された。

第4問については、『SDGsの意義と課題』をテーマにした政治分野と経済分野の融合問題であり、現代社会の諸課題について幅広く取り上げられている。探究する学習における主体的・対話的で深い学びを実現する学習手順に沿って設問が設定されており、昨年度に引き続き高等学校の授業改善を前提とするメッセージ性のある問題である。出題については、読み取らせる文章や資料は多いが、全体としての難易度は標準である」との評価を受けた。対外債務に関する問5は、「対外債務問題を例に論理的思考力を問う。メモに資料の定義や説明が述べられているので、知識は必要ない」と評価された。SDGsの意義に関する問6は、「知識・理解及び資料を基に思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる、標準的な難易度の良問である」、「二人の生徒の会話からそれぞれの立場を理解し、文脈から考えて一人の生徒の主張に即した発言を選ぶ読解力と思考力の問い。Xは各国の主体性を重視し、できるところからできる目標を定めて進めていくところをつかむ力が問われる」と高く評価された。

全体を概観して、「第2問の問4のように知識の理解の質を問う問題や、第1問の問3、第2問の問5、第3問の問5、第4問の問6のように、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる設問、さらには、第1問の問2、問6、第2問の問7、問8のように知識・理解を基にしたり、知識・理解を踏まえたりして資料を読み取る力を問う設問など、工夫がみられた」との評価を受けた。今後の問題作成に当たっても、こうした工夫を継続するよう努めたい。

4 ま と め

「高等学校教科担当教員の意見・評価」や「教育研究団体の意見・評価」で述べられているとおり、全体としては、学習指導要領に則して「政治・経済」の全分野にわたり、基礎・基本を重視しつつ、知識・技能の定着状況を確認する設問、多面的・多角的に考察させる設問、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことを求める設問など、共通テストに求められる水準の問題を作成できたと判断している。

さらに良質な問題を作成するために、今後の問題作成に当たって引き続き留意すべき点もある。まず、共通テストではリード文に代わる大問の導入部分を各設問とのつながりも意識しながら設けているが、様々な情報媒体を活用するというメッセージ性や授業改善を前提とするメッセージ性については一定の評価を受けつつも、生徒が主体となって活動する場面設定の少なさや各設問との関係性の薄さ、専門性を活かしたリード文の重要性などが指摘された。また、分量については問題作成方針を考慮すれば適切と評価されたものの、大量の情報を読み込み処理する能力を問う意味に関する指摘があったことにも留意しながら、適切な範囲に問題全体の分量を収めるよう引き続き努めたい。さらに、高く評価された知識の理解の質を問う設問や教育的配慮に満ちた設問などを出題することへの期待に、今後も応えていく必要がある。

こうした指摘や要請を十分に意識しながら、現代の政治、現代の経済、現代社会の諸課題について幅広く取り上げ、知識・技能、思考力・判断力・表現力等をさまざまに活用して解くことを求める問題作成の工夫を積み重ねていきたい。